

平成28年度市政懇談会会議録

開催日時：平成28年5月10日（火） 午後7時～午後8時10分

開催場所：緋の郷円形交流館 多目的ホール

参加者：189人

市側出席者：五十嵐市長、吉田副市長、徳江教育長

佐藤総務部長、福田企画部長、池田財政部長、松島市民部長、茂木環境部長、
武井健康推進部長、三澤福祉こども部長、横山長寿社会部長、出崎経済部長、
岩佐建設部長、笠原都市計画部長、喜楽水道局長、笠原消防長、
高尾経営企画部長（市民病院）、大澤会計管理者、石原議会事務局長、
大澤監査委員事務局長、荻原教育部長

1 開 会 司会進行（企画調整課長）

2 特別職の紹介・市職員（部局長）の紹介

3 市長あいさつ

皆様、こんばんは。本日は、夜分お疲れのところ、また、連休明けで大変お忙しい中、市政懇談会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

この場をお借りして、冒頭、大変恐縮ですが、お詫びをさせていただきます。

先般、元市職員が逮捕されるという事態が発生しました。皆様には、大変ご心配をお掛けし、心からお詫びを申し上げますと同時に、今後、二度とこうしたことがないよう、しっかり対応をとっていきたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、この市政懇談会は、年度当初にあたり、本年度、当市がどのような方向を目指していくかについて、概略をご報告させていただき、また、皆様から、ご意見、ご要望等をお受けして、市政に反映させていこうという趣旨のもと、開催するものです。

それでは、スクリーンをご覧くださいながら、平成28年度の重点政策等について、ご説明させていただきます。

4 重点政策の概容

(1) 平成28年度重点政策について <市長説明>

(2) 質疑応答 <特別職及び部局長> (7:45～)

※質問及び回答の要旨を掲載しています。

◆伊勢崎市の人口動態について

【質問】

先ほどのお話で、昨年の国勢調査の結果、伊勢崎市の人口は増えたということですが、大変喜ばしいことだと思います。

ここ2～3年における転出・転入及び死亡・出生についての人口増減を教えてくださいますでしょうか。

【回答】（企画部長）

まず、出生数についてですが、平成26年から遡ってお伝えします。平成26年が1,732人、平成25年が1,768人、平成24年が1,787人、平成23年が1,849人、平成22年が1,907人となります。さらに遡っていくと、平成17年が2,004人ということで、これ以降2,000人を割っている状況です。これらの出生数は、当年1月から12月までの数値です。

次に、転入・転出数についてですが、前年10月から当年9月までの移動人口の数値となります。平成26年が転入7,460人、転出6,871人、平成25年が転入7,659人、転出7,133人、平成24年が転入8,091人、転出7,793人といった状況です。増減については、平成26年が589人増、平成25年が526人増、平成24年が298人増となります。

さらに、死亡数については、前年10月から当年9月までの数値で、平成26年が1,990人、平成25年が1,872人、平成24年が1,926人となります。出生と死亡の関係については、自然増減ということになりますが、前年10月から当年9月までの数値でみると、平成26年が110人減、平成25年が87人増、平成24年が85人減ということで、近年は、死亡者の方が増えてきている状況です。

なお、転入・転出の関係については、社会増減ということになりますが、当市においては、転出者よりも転入者の方が多い状況にあります。

◆学校給食調理場整備について

【質問】

学校給食調理場が新しくできるということで、お伺いしたいことがあります。

新調理場の関係についてパブリックコメント手続が実施され、4月中旬が締切りだったかと思いますが、意見に対する回答等はいつ頃いただけるのでしょうか。

【回答】（教育部長）

今お話しいただきましたパブリックコメント手続についてですが、学校給食調理場整備再編計画案に対して、ご承知のとおり、3月16日から4月14日までの30日間実施しました。

皆様からいただいた意見に対して、現在、市の考え方を検討しているところです。このパブリックコメント手続については、多くの方からたくさんのご意見をいただきましたので、それらに対する市の考え方をまとめることに、少し時間を要している状況です。

今後の予定についてですが、まず市の考え方をまとめ、5月末に開催される学校給食運営委員会で審議し、さらに、その審議結果を踏まえて6月の定例教育委員会で最終的な決定をすることになります。従って、皆様からのご意見に対する市の考え方については、6月の定例教育委員会終了後に市ホームページ等で公表する予定となります。

【質問（続き）】

私には子供がいますので、学校給食等を含めて、食に対することに不安を感じると同時に、やはり一番大事なものだと思っています。災害等の際には、学校は避難所になるので、例えば、各学校内に調理場があれば良いのではないのでしょうか。そうすれば、災害時には、すぐに炊き出し等の対応ができるのではないかと思います。

ぜひ、保護者、子どもたち、先生方の意見を取り入れた学校給食の運営を進めていっていただきたいと思います。

【回答】（市長）

いろいろな担当部署で検討し、研究を進めているところですが、学校給食で何より大事なことは、いかに安全なものを子どもたちに提供するか、ということではないかと思えます。当然、そのことに付随して、味も美味しい、また、栄養価のバランスもとれているものが理想ですので、今後も、そういったことを目指してしっかり進めていきたいと考えています。

また、災害時の避難所になる学校に調理場があれば良いのではないかというお話ですが、例えば、地震等の際には、揺れの大きさにもよるかと思えますが、現在の九州での地震を見てみると、熊本では、水道管や下水管等が切れてしまい、炊き出しをしようにも、水や火が使えない状況が続いているようです。そうしたことも踏まえ、当市の避難所の整備については、各町内の自主防災組織の皆様にご協力いただき、自主防災倉庫等も完備していますので、当座、ご利用いただく水等は近くに置いてある状態になっていますが、災害はいつどのような形で起こるかわかりません。防災については、しっかり対応できるよう、今後もさらに研究を深めていきたいと考えています。

◆高齢者支援に伴う施設整備等の進捗状況について

【質問】

高齢者支援についてですが、高齢者の人口が増えているということで、高齢者に関係する施設や体制等が整っていくことが大切だと思います。地域包括支援センターを市内9圏域に設置ということですが、体制が整ってすでにスタートしているということなのでしょうか。また、特別養護老人ホームの関係については、年度内にスタートできるのでしょうか。進捗状況について教えていただきたいと思います。

【回答】（長寿社会部長）

地域包括支援センターについては、市内を9圏域に分けた中で、受託業者を選定し、8圏域の業者が決定したので、引き継ぎ等を終え、現在、すでに運営されている状況です。

また、特別養護老人ホームについては、すでに業者を選定しましたので、現在、選定された業者と手続きを進めている段階です。

◆小児救急について

【質問】

伊勢崎市の小児救急について少し心配しています。私の息子は、救急車で運ばれるような状態になったことがありました。その際、市民病院では受け入れていただけず、2回断られました。救急隊の方があちこちの病院と一生懸命連絡を取って下さったおかげで、最終的には、どうにかベッドを空けていただき、日赤病院で診ていただくことができました。その時は、息子の命が無くなるくらいなら、自分の命をあげてもいいと思うくらいとても心配で、不安な気持ちになりました。私のような気持ちになる方が今後いなくなるよう、小児救急についてもう少し手厚く対応していただければと思います。

【回答】（経営企画部長）

市民病院において、救急を断られたという事実があったということで、大変ご迷惑をお掛けしました。

市民病院においては、小児科医の数が限られています。毎晩、当直医として、各医師を配置できるような状況であれば、市民の皆様には安心安全なサービスを提供できるのですが、特に、小児科医については、当院だけでなく、県内においても非常に少ない状況にあります。最終的には日赤病院で受け入れていただいたというお話でしたが、当院の小児科医が、前橋地域の小児科医と連携しており、当院の小児科医が不在の時は、前橋地域の病院にスムーズに移送できるような話し合いも行われているところです。今後も、できる限り小児科医の確保等に努めていきたいと考えていますので、ご迷惑をお掛けしていますが、ご理解いただければと思います。

◆災害時における動物の対応等について

【質問】

昨年12月に、伊勢崎市地域防災計画が策定されましたが、災害時の対応ということで、特に動物愛護に関連した質問をさせていただきます。

5年前には東北大地震、先月は九州で震災が発生しましたが、市内の各学校に対して、この地域はここに避難するようという指示の目安になるハザードマップがあります。例えば、犬や猫を飼っている場合、平成26年度末で犬や猫の登録数は12,000を超えていたと思いますが、一緒に避難するほどペットとしての動物に対する愛護心があり、今や、動物はパートナーとして存在しているような状況にあります。

地域防災計画を読ませていただきましたが、動物等の避難に関する具体的な対応については何も記載されていません。このことについて、伊勢崎市では、どのように捉え、どのようにしていこうとお考えなのか、聞かせていただきたいと思います。

また、現在、群馬県では、「動物愛護殺処分ゼロ」について、とても前向きに取り組まれています。やはり、幼稚園や小中学校での教育がとても大事なことはないかと思えます。玉村の動物愛護センターについては、譲渡前学習会のようなものがあり、譲渡前には必ず講習を受けます。例えば、学校等において、皆でスライドを見ながら勉強したりする時間を作っていただく等、伊勢崎市でも、「動物愛護殺処分ゼロ」について前向きに取り組んでいただければと思います。

【回答】（総務部長）

前段の災害時における動物の対応についてですが、通常、災害が起こった場合には、主に、学校の体育館等が避難所になります。動物と一緒に避難した場合、他の避難者の方に迷惑を掛ける可能性も考えられるため、現状では、一緒に避難所の中で過ごすということは難しいかと思えます。

防災に関する1つの訓練として、HUGという訓練があります。これは、避難所運営ゲームの略称になります。このHUGにより、例えば、体育館の避難所にペットと一緒に避難してきた場合はどうしたらよいか、言葉の通じない外国人が来たらどうしたらよいか、あるいは、物資が足りない場合の通信手段はどのようにしたらよいか等、自主防災組織の皆様にも一緒に考えていただくような訓練をしています。ペットの対応については、具体的にどうしたらよいかという答えを今すぐには出せませんが、HUGのような訓練を通じ

て、例えば、体育館は無理でも学校の空いている教室でペットとご家族に使っていただいたり、あるいは、校庭にテントを張ってペットとご家族と一緒に過ごしていただいたりという対応も考えられると思います。地域防災計画においては、具体的なことは記載していませんが、今後、このような訓練の中で、いろいろな方策を検討していきたいと考えています。

【回答】（環境部長）

動物愛護の関係についてですが、殺処分をゼロにする取り組みの1つとして、今年1月に、犬・猫譲渡会を実施したところ、約200の方がお見えになりました。

さらに、学校教育の中での取り組みについてですが、これについては、獣医師会や動物愛護協会等と協力しながら、今後、検討していきたいと考えています。

【回答】（教育長）

学校教育の中での動物愛護に対する取り組みについてですが、県の獣医師会等と連携し、動物愛護ということで、各学校において、うさぎを抱いたり、聴診器で動物の心臓の鼓動を聞いたりというようなことを行っているところです。さらに、動物愛護週間に合わせ、標語を作ったり、絵やポスターを描いたり、といったことも行っています。また、小さな生き物の命から自分も含めて、命を大事にするという、命の教育を実施しています。

ご指摘いただいたことは、大変重要なことだと思いますので、今後、全ての学校において、命を大事にする教育に努めてまいりたいと考えています。

◇閉会あいさつ（市長）

本日は、大変お疲れのところ、また、お忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。皆様からいただいたご意見については、しっかり市政に反映させていただき、皆様と一緒に、元気で、豊かで、安全な伊勢崎市を目指してまいりたいと思いますので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

また、これからもお気付きのことがあろうかと思しますので、その際には、各担当窓口、遠慮なくお申し付けください。

皆様と一緒に、元気なまちを目指してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

本日は、大変ありがとうございました。

5 閉 会（企画調整課長）

（8：10）